

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390100404		
法人名	社会福祉法人 朋友会		
事業所名	グループホームたけべ 1F		
所在地	岡山市北区建部町建部上557-2		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390100406-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390100406-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年2月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

豊かな自然と天然温泉での入浴サービス、遊歩道の散策、買い物等毎日を楽しみ過ごして頂いている。レクリエーション、行事を大切に笑い、身体機能の維持に努めている。また、個人個人に合った軽作業や日中活動を行い個別ケア実施に努めている。ご家族様が気軽にホームに足を運んでいただける様、状況報告や積極的なお声をを行いご家族様との関係を大切にしよう心掛けている

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

メダカの学校で有名な岡山市北区建部学区に位置し、リビングから旭川の眺めや恵まれた自然を満喫できる八幡温泉郷のなかに事業所はある。「人は見つめてもらい、誰かとふれあい、言葉を交わすことで存在する」という新しい認知症ケアの実践に取り組んでおり、職員が中心となり法人が行う研修会で報告を行い、業務の振り返りに役立っている。地域とはボランティア慰問や行事への招待等、交流の機会は多いが、今年度新たに地区の溝掃除に参加したり、住民を含めた緊急連絡網の整備が実現したり、地域との関係はますます深まっている。また、移乗サポートロボットの導入で介護の負担軽減に繋がるなど、新たな取り組みも充実している。職員が一丸になって、その人らしく楽しく生活できるよう支援しており、チームワークの良さが利用者・家族の大きな安心に繋がっている様子が窺えた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲示、チェック表などにファイルし職員全員が見える様にしている。又それに伴ったケアを実施するよう心掛けている。	「自分らしく、自由に、生き生きと」という理念を掲げ、フロアーに掲示するとともに、会議で唱和し意識付けを行っている。利用者が笑顔で過ごせる支援ができていのかどうか、職員間でも声かけしあうようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事に地域の方を招いたり、定期的にボランティアの方の訪問がある。文化祭の出展や見学等の取り組みを行っている。地域の溝掃除などにも昨年より参加している	定期的なボランティア慰問以外に、保育園児との交流や看護学校の研修受け入れ等も行っている。法人が行う花見のお茶会や夏の夕涼み会に住民を招待したり、地域の溝掃除に参加したり等、地域交流の機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会を実施の際に介護技術や看取りに関しての情報提供を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの状況を報告し参加者の意見交換や地域包括センター職員の情報を参考にしサービス向上に努めている。又区長より地域の行事等の情報を得ている。	地域から情報を教えてもらい、文化祭の出展や溝掃除に参加している。防災についても検討され、緊急連絡網の整備に取り組むことができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ネットワーク会議に参加したり、運営推進会議での地域包括支援センター職員との情報交換を行っている	文化センターで行われた懇親会を兼ねた地域ネットワーク会議に出席したり、認知症高齢者対策としての探してメール事業に協力したり等、行政との関係構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体の安全確保の為にやむを得ず玄関の施錠をしている。又以前階段部分に柵があったが現在は使用せず。	マニュアルを作成し、法人が行う研修などを通じて、身体拘束防止について繰り返し学んでいる。身体拘束防止の取り組みとして、装具装着による高齢者模擬体験やユマニチュード(認知症ケア)の研修を行い、認知症ケアの理解や対応のヒントを得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行っており日にちをずらして2日間行いどちらかに必ず出席できるようにしている。行動指針を職員の目のつくところに掲示し意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議の中で地域包括支援センター職員を通して成年後見制度の理解を学習する機会がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には出来るだけ詳細に説明するとともに実際にリビングなどで雰囲気を見て頂いたり質問のしやすい環境を作っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には普段の様子を報告し、変化などあれば電話などで状況を報告するよう心掛けている。 又玄関先に意見箱を設置している	面会時に要望を確認したり、毎年行う家族会や運営推進会議を通じて意見を聞いたりしている。家族からは、レクリエーションの材料、時代劇や郷土史のDVDを寄贈され、生活の活性化に繋がる方法を一緒に検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の主任者会議、職員会議、又随時職員間で報告し意見を交わしている。業務ノートを使用し申し送り事項を確認している	個人面談などを実施、委員会や研修助成も整っており、業務の振り返りやスキルアップに繋がるよう支援している。ソファの購入など現場で出された意見は、職員会議や主任会議で検討してもらっている。	生活リハビリの観点で、もっと体を動かす活動を計画したい等、意欲的な発言を聞くことができた。経験を積み、次の資格の取得等視野に入れ、更なるスキルアップに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定年後は双方の合意により嘱託として勤務し能力を発揮して頂く。介護職、一般職、時間給問わず処遇改善手当を支給している。研修参加も賞与に反映されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講師を招いての施設内研修や地域の研修会に積極的に参加している、資格取得希望者には法人より補助金を支給している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワーク会議に参加したり、近隣施設に見学、意見交換等交流を図っている。また外部研修などでは積極的に交流を持つようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分に本人とコミュニケーションをとり、不安や要望を聞きだし、対応するよう心掛けている。またインテーク時の本人、家族からの情報を大切にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や本人の思い、意向を聞きホームでの生活の様子を面会時や広報紙等を通して報告している 急を要する事は電話で連絡している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者の意見を聞き、介護保険制度で利用できるサービスを説明しグループホームでのケアが難しいと判断された場合、他の事業所を紹介するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活をしている他利用者と共に洗濯物を畳んで頂いたりし残存機能を維持し生活の質向上に努めている。可能と思われることは積極的に声掛けを行い実施して頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用者様の様子を手紙や広報紙でお知らせし、職員間だけでなくご家族にも相談、報告している。また職員だけの対応が難しい場合家族の協力を求めることができる関係を作るよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知り合いの方の面会や散歩時の再会で関係が途切れないようにしている。面会時間は原則20時までとしているが極力ご本人、ご家族の要望に応じるようにしている	毎月知人が面会に来てくれたり、家族と墓参りや法事に出かけたり、誕生日に外食へ出かけたりしている利用者もいる。2ヶ月毎の訪問理美容や散歩や買い物先での交流など、新たな馴染みの関係もできてきた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでは席順に気を配りトラブル発生に注意し、環境に配慮し利用者間でも気軽にかかわりあえる環境を作るようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した方のご家族にその後の様子などを聞き相談などあれば、可能な限り対応するようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後も家族や関係者と話をしていく中で本人の思いを把握している。意思疎通が難しい場合本人の表情や仕草などから本人に合ったケアを検討している	イルミネーションの飾りつけや畑の草取りを手伝うなど、役割を持って生活してもらえよう支援している。喫煙者には、職員と一緒に喫煙スペースで一服できるよう、柔軟な対応を考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビューで本人や家族に生活歴を聞き、入居後はなじみだった方や友人の訪問があった際に以前の様子を聞いたりしている。また日常生活でも本人様からの声を大切にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを把握し、ここに合った対応が出来るよう把握に努めている。生活の中で役割を持ち残存機能を活かせるようにしている。 変化があった際には詳細を記録する		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは3ヶ月に1回行い介護の方針の修正を行っている。本人に対して気になる事があれば家族に報告し、対応策を考え実施するようにしている。職員会議などでも意見交換をしている	毎月のユニット会議でケースカンファレンスを実施し、3ヶ月毎のモニタリングや半年毎にプランの見直しをしている。居室担当者からの聞き取りや利用者・家族の意向を基に、生活ペースに合わせたプラン作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のカンファレンスで気づいた点をあげ今後の対応を職員間で話し合い検討、実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出・外泊等の対応や、買い物、利用者様の希望にそえる様対応している。個別ケアに向けての努力をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化祭での作品の出品や地域の行事に参加している 近隣の温泉の足湯や朝市などに参加し本人と地域との関係が無くならないようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院に往診や受診を依頼し、緊急時にも連絡し対応をもらっている。入居前に掛かっていた医療機関も希望する限り続けられるように支援している	2週間毎に提携医の往診があり、専門医への受診は、家族の同行が難しければ職員が付き添う。体調に変化があれば、看護師が夜間でも駆けつけ、主治医との連絡調整をしてくれるため、大きな安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤勤務しているため、異変があればその都度相談して対応している、又積極的に介護も行い身体の異常や表情などを観察している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院関係者と入院時には主治医の紹介状の依頼をする等連携をとり退院の際には状況の変化に応じたサービス計画を説明し迅速に対応するよう心掛けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について入居時に指針を用いて説明し可能な事に限度があることを伝え、そのような状況になる可能性がある利用者様とは家族とDrをふまえ事前に今後の対応について話し合いを設けている	入居契約時に重度化や終末期について、常に医療処置が必要になれば対応できないが、可能な限り対応したい旨を説明している。必要時には、主治医や家族と今後の対応について再度検討を行い、意向を確認しながら納得いく支援を提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生の講習を消防署に依頼したり、マニュアルを掲示している またそういった事態に備えマニュアルを職員同士確認している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署、業者立ち会いの下、昼夜対応の避難訓練を実施し避難の手順は把握するように努めている。水害については2F部分に避難する	昼夜想定避難訓練を年2回実施し、消火器の使用や指定場所の中学校までの避難も訓練に取り入れた。委員会において、応急救護訓練や台風・水害時などの対応についても取り上げている。災害対策マニュアルも作成中である。	今年度、災害時の住民代表者を含めた緊急連絡網を整備した。地域住民の訓練への参加の声かけを通じ、支援の輪が広がり協力関係がますます深まることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあった声かけをし人生の先輩と尊重し、ホームで共同生活をしている家族の一員として個人を大切にしよう心掛けている	利用者のペースで生活ができるよう支援しており、新しい認知症ケアの取り組み等、専門職としての接遇ができるよう努めている。個人情報取り扱いについては、書面で誓約書を取り交わし、対応を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出(散歩等)やレクリエーション等の希望を聞き無理強ひせず自由に過ごして頂く。自分のしたい行動を本人で決定して頂く。答えが難しい場合職員が選択肢を提示し本人に決定してもらっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ個人のペースを尊重し、個人のリズムにあった日常生活を支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装に関しては本人の持ち物の中から希望にそえるようアドバイスしたり、2ヶ月に1度ホームカット(理美容)に来て頂き身だしなみを整えている。入浴の際の服はできる方は本人で行っていただく		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備に関しては行っていないが片付けや洗い物等は状況に応じて行って頂いている。料理名を説明し職員も一緒に食事している	歳時記や全国駅弁などを献立に取り入れながら、法人の厨房から利用者の形態に合わせた食事の提供がある。そうめん流しやお好み焼き作りを計画したり、野菜や果実を収穫したりなど、食の楽しみも多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々によって量や形態、好き嫌いがあるのでそれを把握し適したものを提供している。量、減塩、糖分、カリウム・脂分、水分など個々に気を付けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛けをしたりできない方には誘導して、口腔ケアをしている。希望する本人様、家族様には月に1度歯科往診し口腔内のチェックを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインを察知して声掛けや誘導、見守りを行っている 又排泄チェック表を確認し排便や排尿の予測を行い誘導している	排泄パターンの把握や水分・食事摂取の工夫により、失便回数が減り、薬に頼らない排泄に繋がったケースもある。移乗サポートロボットの導入で、夜間も重度の利用者がポータブルトイレで安全に排泄できるようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックを行い、ストレッチなど日々の運動や水分、乳製品の摂取で対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、原則として時間は決まっているが足浴、シャワー浴、状態によっては清拭を行っている。又利用者によって身体の状態が異なるので介助方法を工夫し入浴しやすい環境を整備している	浴室の蛇口をひねると、リラックス効果のあるアルカリ性単純温泉の湯が出てくる。週2回の入浴以外に、状況に応じシャワー浴や清拭を柔軟に行ったり、散歩がてら隣接の足湯を楽しんだりすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も臥床の希望があれば臥床して頂き、日中のレクリエーションなどで活動し夜間しっかり入眠できるようにしている。また電気毛布、湯たんぽなど使用して入眠して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の種類や効能、副作用などが分かるようファイリングしいつでも閲覧できるようにしている。服薬時は手渡しし確実に服薬するようしている、また簡易懸濁など本人に合った服用方法を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	プライバシーに配慮し居室内やリビングでの楽しみや個人個人で洗濯たみ、シーツ交換の手伝い、おぼん拭きなど役割を持っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や花見、紅葉などの外出や日光浴、その日の天気や利用者の状況によって外出支援を行っている。又家族の協力を得て外出される方もいる。ホームでの物品などの買い物に同行される方もいる	宇甘溪や乗馬クラブへの行事の外出以外に、スーパーまで買い物に出かけたり、整備された遊歩道を散策したりすることもある。裏庭にテーブルを出し、日光浴を兼ねお茶やおやつを楽しみ、日常的に気分転換ができるように支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が可能な方は理美容代、新聞代を直接支払っていただいている。又ヤクルトの訪問販売で購入される方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれる方は少ないが電話を希望される方には取次や施設内設置の公衆電話まで案内しダイヤルを指示するなどの支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓や玄関などに行事の写真やレクリエーションで作成した作品、クリスマス時期にはイルミネーションなどの飾りを利用者と一緒に設置している	ベランダからは土手に植えてある桜や建部の納涼大会の花火を眺めることができ、四季折々の風景を満喫できる。行事の写真や季節の掲示をすることにより、楽しかった記憶の回想にも役立てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースに限りがあるので一人にはなりにくいが利用者同士で思い思いに過ごす場所はある。 趣味や話の合う方とすごせる様席の配慮もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具は自宅で本人が使用されていた物やなじみのあるものを持ってきていただいている。基本的に持ち込みの制限は行っていない	家族の写真や仏壇など馴染みの物を持ち込み、自分で作った小物や塗り絵などを飾り、自分らしい部屋作りをしている。ドアの表示や目印などは、利用者の好みを取り入れ、混乱が少ないよう工夫がしてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室を迷う方には名札や目印になるようなものを付けている、必要な方にはシルバーカーや車いすを貸出している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100404		
法人名	社会福祉法人 朋友会		
事業所名	グループホームたけべ 2F		
所在地	岡山市北区建部町建部上557-2		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温泉での入浴や近隣の温泉の足湯に出かけたり季節にあった行事を行っている。レクリエーションもワンパターン化しないように様々なレクリエーションを提案、実施し一日一日を大切に生活して頂いている。笑う事を重点的に力を入れており1日に1回でも多く笑って頂くようにしている。利用者間の関係作りも大切にしており初めての利用者さんでも自然と利用者間で打ち解ける様に配慮し、ホームで生活する「家族」としての関係を築いて頂ける様に努力している。家族様にも遠慮なく面会して頂けるように面会時などは近況を報告したり広報紙を通しての日常の様子、電話などでの連絡の際には行事の案内などを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390100406-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390100406-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年2月15日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲示、チェック表などにファイルし職員全員が見える様にしている。又それに伴ったケアを実施するよう心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事に地域の方を招いたり、定期的にボランティアの方の訪問がある。文化祭の出展や見学等の取り組みを行っている。地域の溝掃除などにも昨年より参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会を実施の際に介護技術や看取りに関しての情報提供を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの状況を報告し参加者の意見交換や地域包括センター職員の情報を参考にしサービス向上に努めている。又区長より地域の行事等の情報を得ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ネットワーク会議に参加したり、運営推進会議での地域包括支援センター職員との情報交換を行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体の安全確保の為にやむを得ず玄関の施錠をしている。又以前階段部分に柵があったが現在は使用せず。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行っており日にちをずらして2日間行いどちらかに必ず出席できるようにしている。行動指針を職員の目のつくところに掲示し意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議の中で地域包括支援センター職員を通して成年後見制度の理解を学習する機会がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には出来るだけ詳細に説明するとともに実際にリビングなどで雰囲気を見て頂いたり質問のしやすい環境を作っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には普段の様子を報告し、変化などあれば電話などで状況を報告するよう心掛けている。 又玄関先に意見箱を設置している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の主任者会議、職員会議、又随時職員間で報告し意見を交わしている 業務ノートを使用し申し送り事項を確認している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定年後は双方の合意により嘱託として勤務し能力を発揮して頂く。介護職、一般職、時間給問わず処遇改善手当を支給している。研修参加も賞与に反映されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講師を招いての施設内研修や地域の研修会に積極的に参加している、資格取得希望者には法人より補助金を支給している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワーク会議に参加したり、近隣施設に見学、意見交換等交流を図っている。また外部研修などでは積極的に交流を持つようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分に本人とコミュニケーションをとり、不安や要望を聞きだし、対応するよう心掛けている。またインテーク時の本人、家族からの情報を大切にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や本人の思い、意向を聞きホームでの生活の様子を面会時や広報紙等を通して報告している 急を要する事は電話で連絡している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者の意見を聞き、介護保険制度で利用できるサービスを説明しグループホームでのケアが難しいと判断された場合、他の事業所を紹介するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活をしている他利用者と共に洗濯物を畳んで頂いたりし残存機能を維持し生活の質向上に努めている。可能と思われることは積極的に声掛けを行い実施して頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用者様の様子を手紙や広報紙でお知らせし、職員間だけでなくご家族にも相談、報告している。また職員だけの対応が難しい場合家族の協力を求めることができる関係を作るよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知り合いの方の面会や散歩時の再会で関係が途切れないようにしている。面会時間は原則20時までとしているが極力ご本人、ご家族の要望に応じるようにしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでは席順に気を配りトラブル発生に注意し、環境に配慮し利用者間でも気軽にかかわりあえる環境を作るようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した方のご家族にその後の様子などを聞き相談などあれば、可能な限り対応するようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後も家族や関係者と話をしていく中で本人の思いを把握している。意思疎通が難しい場合本人の表情や仕草などから本人に合ったケアを検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークで本人や家族に生活歴を聞き、入居後はなじみだった方や友人の訪問があった際に以前の様子を聞いたりしている。また日常生活でも本人様からの声を大切にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを把握し、ここにあった対応が出来るよう把握に努めている。生活の中で役割を持ち残存機能を活かせるようにしている。 変化があった際には詳細を記録する		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは3ヶ月に1回行い介護の方針の修正を行っている。本人に対して気になる事があれば家族に報告し、対応策を考え実施するようにしている。職員会議などでも意見交換をしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のカンファレンスで気づいた点をあげ今後の対応を職員間で話し合い検討、実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出・外泊等の対応や、買い物、利用者様の希望にそえる様対応している。個別ケアに向けての努力をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化祭での作品の出品や地域の行事に参加している 近隣の温泉の足湯や朝市などに参加し本人と地域との関係が無くならないようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院に往診や受診を依頼し、緊急時にも連絡し対応をしてもらっている。入居前に掛かっていた医療機関も希望する限り続けられるように支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤勤務しているの、異変があればその都度相談して対応している、又積極的に介護も行い身体の異常や表情などを観察している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院関係者と入院時には主治医の紹介状の依頼をする等連携をとり退院の際には状況の変化に応じたサービス計画を説明し迅速に対応するよう心掛けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について入居時に指針を用いて説明し可能な事に限度があることを伝え、そのような状況になる可能性がある利用者様とは家族とDrをふまえ事前に今後の対応について話し合いを設けている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生の講習を消防署に依頼したり、マニュアルを掲示している またそういった事態に備えマニュアルを職員同士確認している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署、業者立ち会いの下、昼夜対応の避難訓練を実施し避難の手順は把握するように努めている。水害については2F部分に避難する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあった声かけをし人生の先輩と尊重し、ホームで共同生活をしている家族の一員として個人を大切にしよう心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出(散歩等)やレクリエーション等の希望を聞き無理強いせず自由に過ごして頂く。自分のしたい行動を本人で決定して頂く。答えが難しい場合職員が選択肢を提示し本人に決定してもらっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ個人のペースを尊重し、個人のリズムにあった日常生活を支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装に関しては本人の持ち物の中から希望にそえるようアドバイスしたり、2ヶ月に1度ホームカット(理美容)に来て頂き身だしなみを整えている。入浴の際の服はできる方は本人で行っていただく		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備に関しては行っていないが片付けや洗い物等は状況に応じて行って頂いている、料理名を説明し職員も一緒に食事している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々によって量や形態、好き嫌いがあるのでそれを把握し適したものを提供している。量、減塩、糖分、カリウム・脂分、水分など個々に気を付けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛けをしたりできない方には誘導して、口腔ケアをしている。希望する本人様、家族様には月に1度歯科往診し口腔内のチェックを行っている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインを察知して声掛けや誘導、見守りを行っている 又排泄チェック表を確認し排便や排尿の予測を行い誘導している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックを行い、ストレッチなど日々の運動や水分、乳製品の摂取で対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、原則として時間は決まっているが足浴、シャワー浴、状態によっては清拭を行っている。又利用者によって身体の状態が異なるので介助方法を工夫し入浴しやすい環境を整備している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も臥床の希望があれば臥床して頂き、日中のレクリエーションなどで活動し夜間しっかり入眠できるようにしている。また電気毛布、湯たんぽなど使用して入眠して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の種類や効能、副作用などが分かるようファイリングしいつでも閲覧できるようにしている。服薬時は手渡しし確実に服薬するようしている、また簡易懸濁など本人に合った服用方法を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	プライバシーに配慮し居室内やリビングでの楽しみや個人個人で洗濯たみ、シーツ交換の手伝い、おぼん拭きなど役割を持っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や花見、紅葉などの外出や日光浴、その日の天気や利用者の状況によって外出支援を行っている。又家族の協力を得て外出される方もいる。ホームでの物品などの買い物に同行される方もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が可能な方は理美容代、新聞代を直接支払っていただいている。又ヤクルトの訪問販売で購入される方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれる方は少ないが電話を希望される方には取次や施設内設置の公衆電話まで案内しダイヤルを指示するなどの支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓や玄関などに行事の写真やレクリエーションで作成した作品、クリスマス時期にはイルミネーションなどの飾りを利用者と一緒に設置している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースに限りがあるので一人にはなりにくいが利用者同士で思い思いに過ごす場所はある。 趣味や話の合う方とすごせる様席の配慮もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具は自宅で本人が使用されていた物やなじみのあるものを持ってきていただいている。基本的に持ち込みの制限は行っていない		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室を迷う方には名札や目印になるようなものを付けている、必要な方にはシルバーカーや車いすを貸出している		